

The tip of an

ICeberg

アイシーバーグ
サクラニュースレター

No. 10

春号

The tip of an ICeberg=氷山の一角

感染制御は見える部分だけでなく、見えない部分に多くの課題があることの象徴です



| 2018 | Spring |

Contents

感染制御トピック

**第33回日本環境感染学会総会・学術集会から
「検査室における感染対策」を考える**

[展示会レポート]

第33回日本環境感染学会総会・学術集会

病院“あるある”事例

滅菌保証?バリデーション?全てはストーリー次第／前編

サクラとびあの思い

3Dレイアウトをぜひご活用ください!

出展・セミナー情報

感染制御トピック 第33回日本環境感染学会総会・学術集会から 「検査室における感染対策」を考える

神戸女子大学 教授 看護学部 洪愛子

2018年2月に開催された本学会は、「感染制御におけるBest Practiceの追求」をテーマに参加者が7,000人を超え、熱気あふれる2日間でした。サクラ精機共催のランチョンセミナーで講演された坂本史衣先生（聖路加国際病院 QIセンター感染管理室マネジャー）は、学会期間中に「医療環境」「手指衛生」「サーベイランス」に関連するテーマでの講演やシンポジウムなど多くの発表をされ、発表会場はどこも立ち見が出るほど。本ランチョンセミナーのネット受付においても、開始後すぐクローズされた人気の高さであったとか。

ランチョンセミナー「検査室における感染対策」は、看護師をはじめ検査技師や医師からなる約300人が参加された。まず、検査を行う医療従事者の感染予防について、検査室・実験室で取り扱う微生物のリスクグループ分類（ヒトに疾患を起こす可能性と予防治療法が確立しているかでリスクグループを4段階に分類）とバイオセーフティレベル（ヒトや環境に対して危害を与える病原微生物やその病原性因子に対する安全対策を4段階に分類）を解説、検査室獲得感染の発生頻度と感染経路に続き、共通する基本的対策とリスクレベルに応じた対策、すなわち「運営管理・良好な実践・一次封じ込め・二次封じ込め」のそれぞれについて示された。例えば作業者と周囲環境を守るための一次封じ込めは、手指衛生と個人防護具、緊急シャワー・洗眼設備・安全キャビネットが基本となること、WHOのLaboratory Biosafety Manualも紹介しながら、検査室の現場での適用例が紹介された。検査を受ける患者の感染予防は、内視鏡検査と超音波検査について解説された。十二指腸内視鏡を介したCRE感染リスクは、CRE汚染された内視鏡使用の逆行性胆道膵管造影検査で伝播の確率が14.4%、洗浄・高水準消毒プロセスの半分にあたるステップが不適切と指摘する文献情報を紹介。国内のガイドラインなどを基に推奨される作業手順の確認と標準化はすぐにも対応できると述べられた。超音波検査については、検査用ゼリーの汚染による感染の発生状況から検査用ゼリーの管理が重要である

こと。経膈・経直腸エコープローブの汚染データからリスクを考え、プローブの再生処理には高水準消毒が推奨されるが業務効率と費用のバランスも考えつつ対策を検討することや製造元およびガイドラインで推奨される消毒方法を確認し、検査を受ける患者の感染予防の視点から業務を早急に見直す必要性が指摘された。参加された多くの皆さんが、現場での改善に役立つ具体的な情報を得る貴重な機会となったことを、会場の熱気から感じることができた。

検査室あるいは検査に関連する感染対策については、他にもパネルディスカッションと職業感染制御委員会企画で取り上げられ、一般演題では内視鏡検査や処置に関連した感染をテーマにしたものが複数のみで、全体的には少ない印象であった。関連する業務に直接携わる職員と共に、感染対策チームメンバーそれぞれが専門的な立場から情報共有し、検査室における感染対策にもベストプラクティスの追求をされんことを願いつつ、その活動が次年度の学会で報告されることを楽しみにしている。



左：坂本史衣先生 右：筆者

【展示会レポート】 第33回日本環境感染学会総会・学術集会

開催日：2018年2月24日（土） 会場：グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール 演題：検査室における感染対策について
講師：坂本 史衣先生（学校法人聖路加国際大学 聖路加国際病院 QIセンター感染管理室）
座長：洪 愛子先生（神戸女子大学 看護学部）

2月23日・24日の2日間で第33回日本環境感染学会総会・学術集会が開催され、2日目にあたる24日（土）にランチョンセミナーを共催しました。坂本先生より検査を行う際の感染予防について、「検査を行う医療従事者の立場」および「検査を受ける患者の立場」の視点からわかりやすく解説していただきました。定員200名のところ、立ち見を含めて約250名の



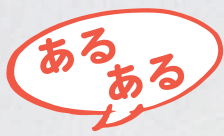
お客様が参加され、セミナーは盛況に終了することができました。

セミナー参加の皆様にはアンケートのご協力

をいただきましたが、「今後ご希望のテーマ」という設問に対して、様々なご希望テーマの案を頂戴し、当社としても別の機会を通じてさらなる情報提供の責任を感じる機会にもなりました。

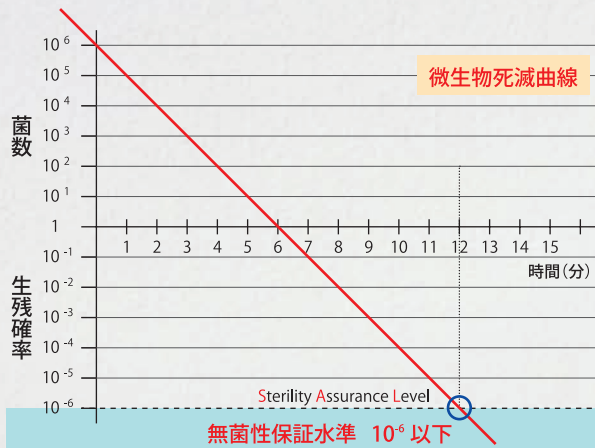


また、展示ブースにおきましては超音波プローブ高水準消毒器、ディスポーザブルパルプ粉砕機、ディスポ製排泄物処理キットなどを出展し、多数のお客様にご紹介することができました。今後も様々なかたちで情報提供をまいります。

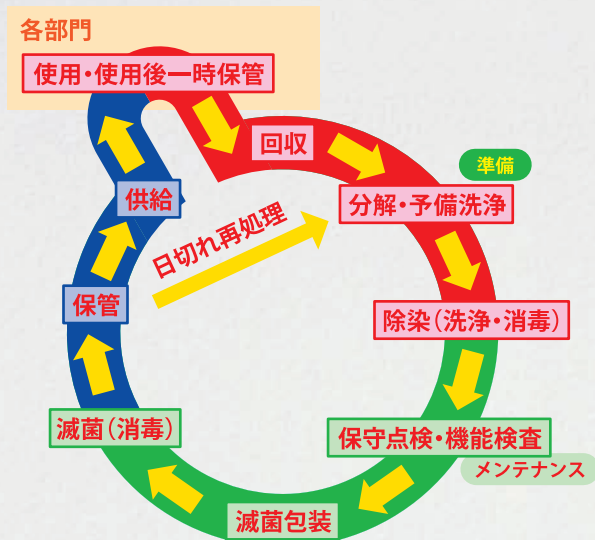


滅菌保証？バリデーション？全てはストーリー次第／前編

何かを証明や保証するのであれば、先ずはその何かの持つ意味や目的を正確に理解しなければ、そこに至るストーリーを作り、付け入る隙のない確証を得ることはできません。再使用医療機器や器材を再生処理するという事は、前回再生処理～使用～回収までの間に付着する微生物を含む様々な異物を、感染上問題のない水準まで処理することが要求されます。肉眼では認知不能、あるいはどのような手段を持ってしても検知困難な間隙や内腔に残存すると考えられる異物が、使用しても問題ないとする水準を突破している確証を示さなければならないということです。突破するプロセスは100施設あれば100通り存在します。が、「滅菌後の滅菌物が無菌であることを証明する手段が今はない」…実に悩ましい。



医療現場においても滅菌処理に求められている無菌性保証水準は10のマイナス6乗ですから、「滅菌した100万個の製品中に存在してよい生育可能な微生物は最大1個である」ということであり、滅菌保証実現には常に検証済みのプロセスで処理・供給しなければなりません。また、人の記憶は人それぞれの特性があり、記憶力や解釈も人それぞれですから、恒常的に同じ結果を求めるためには科学的検証に基づく標準作業手順書 (Standard Operating Procedures: SOP) 作成と、教育・訓練を受けたスタッフがSOPを順守し、プロセスがその通りに再現されたことについて確認・記録に残す必要があります。個人的感情や都合による逸脱は許されません。つづく。



「無菌」とは、「育成可能な微生物が存在しないこと」(ISO/TS 11139 定義 2.43 参照) (SO/TS 11139 ヘルスケア製品の滅菌 - 用語の定義)

「滅菌」とは、「製品を育成可能な微生物が存在しない状態にするために用いる、バリデートされたプロセス」(ISO/TS 11139 定義 2.47 参照)

「無菌性保証水準 Sterility Assurance Level (SAL)」とは、「滅菌後に、育成可能な1個の微生物が製品上に存在する確率」(ISO/TS 11139 定義 2.46 参照)

「病院“あるある”事例」コーナー担当の大平です。

このコーナーでは、研修会や講演会、そして病院内でよくあるご質問の中から毎回トピックスを取り上げて解説します。「こんなことを聞いてみたい」「こんな疑問に答えてほしい」といったテーマがあれば、編集部までお知らせください。

ご質問はメールでお気軽に!

メールアドレス iceberg@sakurajp.com

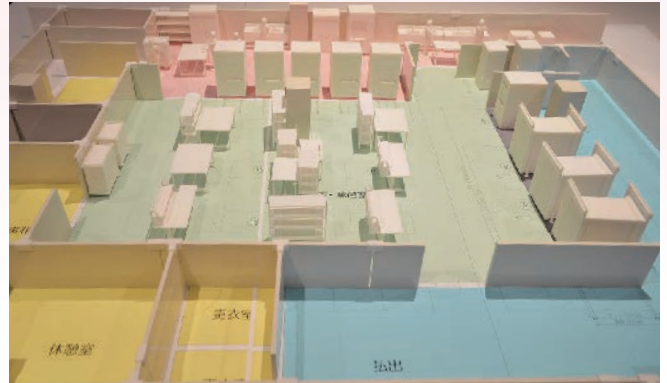




2月23日(金)・24日(土)に開催された「第33回日本環境感染学会」に合わせ、ご施設(移転に伴う新築)を3Dレイアウトで検討するため、遠方の医療施設の方がサクラとぴあにご来場されました。3Dシミュレーターにて視覚的にレイアウトを確認され、作業動線やスペースを3Dプリンターで出力したミニチュア模型を用いて納得がいくまで検討いただきました。「組立・包装エリアや回収エリア、払出しエリア等の作業動線がイメージしていたよりも混雑していた」、「作業スペースが思っていた以上にギリギリであったため、レイアウトの見直しが必要だと気づけた」との感想でした。帰り際には、「レイアウトを検討に来て良かった」とのお言葉を頂戴しています。

5月31日(木)～6月2日(土)に開催される「第93回日本医療機器学会大会」の際にも、サクラとぴあを開放いたします。ご興味

のある方はお近くの営業所またはサクラとぴあ事務局へご連絡ください。皆様のご利用をお待ちしています!



ミニチュア模型で作業動線&スペースを確認

出展・セミナー情報

弊社主催のセミナー、学会での発表予定や今後の展示会、全国の研究会での出展予定です。弊社Webサイトの「研修・セミナー・展示会」ページもあわせてご覧ください。

■ 第70回日本産婦人科学会学術講演会

2018年5月10日(木)～13日(日)

仙台国際センター、川内萩ホール

お問い合わせ先: 第70回日本産婦人科学会学術講演会

運営事務局

株式会社MAコンベンションコンサルティング

■ 第93回日本医療機器学会大会併設展示会

メディカルショー・ジャパン&ビジネスエキスポ2018

2018年5月31日(木)～6月2日(土)

パシフィコ横浜 展示ホールD

大会長: 東 竜一郎(サクラ精機株式会社 代表取締役社長)

主催: 一般社団法人 日本医療機器学会

■ 第14回首都圏滅菌管理研究会

2018年5月12日(土)

東京医科歯科大学 M&Dタワー 2F 鈴木章夫記念講堂

編集後記

風香る新緑の季節となりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。暑がりであり寒がりでもある私は、過ごしやすくて良い時期だなと感じています(笑)。お休みの日には、ピクニックやハイキング等、アウトドアを楽しまれる方も多いのではないのでしょうか。

さて、編集部では皆さまに有意義な情報提供ができればと考えています。掲載してほしい感染症のトピック等ございましたら、事務局へご連絡ください。

それでは、また次号もご期待ください!

